

様式 C - 7 - 1

平成29年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）実績報告書（研究実績報告書）

所属研究機関名称		大妻女子大学	機関番号	32604
研究代表者	部局	社会情報学部		
	職	特別研究員(PD)		
	氏名	小川 真理子		

1. 研究種目名 特別研究員奨励費 2. 課題番号 16J11798

3. 研究課題名 DV被害者支援と民間シェルターにおける米・加・日の比較研究

4. 研究期間 平成28年度～平成29年度 5. 領域番号・区分 -

6. 研究実績の概要

本研究では、アメリカ（米）・カナダ（加）・日本におけるDV被害者支援に携わる民間シェルターの現状と課題について比較検討を行ない、実効性のあるDV被害者支援を検討することを目的に研究を遂行してきた。平成29年度は、米加の現地実態調査を実施し、研究成果の一部を学会（国際学会2回、国内2回）等で報告した。

米ロサンゼルス調査では、民間シェルター支援者、加トロント調査では、民間女性NGOの代表・支援者へ聞き取り調査を行った。また、これまでの日本の民間シェルター及び民間女性NGO、行政、関係機関への聞き取り調査を基に考察を行なった。

米加では、女性への支援は民間女性NGOの活動からスタートしたが、現在では、州政府、関係機関、民間女性NGO、民間シェルター、医療関係者等多様な主体が連携をとりネットワークを構築し支援を行っている。一方、本調査から明らかになった米加の団体に共通する課題は、外国籍や複合的な困難を抱えるDV被害者への対応や女性の自立支援の難しさに直面していることである。日本では、DV防止法施行以降、DV被害者支援制度は整備されつつある。しかし、公的機関による支援がDV被害者の一時保護以降の継続的なアフターケアを含んでいない等未だに課題は多い。このような中、民間シェルターは先駆的に支援を行ってきた。本調査を通して明らかになった論点は、第1に、運営上の問題や行政による財政支援の不足は、日本の民間シェルターに際立った特徴であることである。有償ボランティアを余儀なくされている支援者の待遇の改善は喫緊の課題である。第2に、DV被害者支援において不可欠とされる関係機関の連携は、日本では二極化しており、関係機関間でも温度差がみられた。一方、米加ではDV被害者を中心とした支援と連携体制が整備されつつある。米加における法制度と支援との関連、官民の連携等については引き続き調査を継続し検討する。

7. キーワード

民間シェルター DV 女性支援 アメリカ カナダ 日本

8. 現在までの進捗状況

区分
理由
翌年度、交付申請を辞退するため、記入しない。

3版

9. 今後の研究の推進方策

翌年度、交付申請を辞退するため、記入しない。

10. 研究発表（平成29年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著論文 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小川 真理子	4. 巻 15
2. 論文標題 制度のはざまにいるDV被害女性への支援	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際ジェンダー学会誌	6. 最初と最後の頁 5-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Mariko Ogawa
2. 発表標題 Support for Female Victims of Domestic Violence in Miyagi Prefecture, Japan After the Great East Japan Earthquake
3. 学会等名 The 26th Annual Conference of the International Association for Feminist Economics, (Sungshin University, Korea) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小川 真理子
2. 発表標題 震災とDV被害女性:宮城県の民間シェルター調査を通して
3. 学会等名 第二回東アジア日本研究者協議会国際学術大会（天津賽象酒店、南開大学、中国）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小川 真理子
2. 発表標題 災害・復興と女性への支援:宮城県の民間シェルターを中心に
3. 学会等名 日本フェミニスト経済学会研究会(お茶の水女子大学)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小川 真理子
2. 発表標題 女性支援における国際間の考え方の違い DV被害者支援の実例から
3. 学会等名 男女共同参画・女性研究者支援事業担当者向けセミナー(九州大学)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Mariko Ogawa	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Rawat Publishers	5. 総ページ数 -
3. 書名 Gender and Structural Violence (The Role of Women's Shelters and the Women's Movement in Japan)	

1 1. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件(うち出願0件/うち取得0件)

1 2. 科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

1 3. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

-

1 4. 備考

-